

# リスクコミュニケーションアンケート集計結果（平成17年11月2日開催：小樽市）

参加人数 211名  
 アンケート回答者数 92名 回答率 43.6%

Q1 ご自身について、ご回答ください。	
1 消費者	12 (13.0%)
2 食品等事業者	28 (30.4%)
1 農林水産業	3
2 製造・加工業	19
3 卸売業	1
4 小売業	2
5 業界団体	0
6 その他	3
3 マスコミ関係	12 (13.0%)
4 地方公共団体職員	28 (30.4%)
5 試験検査施設	4 (4.4%)
6 その他	8 (8.7%)

Q2 本日の意見交換会の開催について、何でお知りになりましたか。	
1 ホームページ	39 (42.4%)
1 厚生労働省	12
2 農林水産省	15
3 他ホームページ	2
2 新聞記事	2 (2.2%)
3 雑誌記事	2 (2.2%)
4 ポスター又はチラシ	4 (4.4%)
5 その他	41 (44.6%)
お知らせが回ってきた。	
日本輸入安全推進協会	
小樽市食品衛生協会より案内があった。	
保健所からのFAX	
加盟団体からの案内	
直接開催連絡がきた	
道庁衛生部局から連絡	
札幌消費者協会の案内	
厚労省からの通知	
関係機関からの案内による	
北海道農政事務所からの通知文	
取引先からの電話連絡にて	
団体の連絡網で	
業界団体からの連絡	
食料品消費モニターのため、農水省より案内がきた。	
北海道厚生局から案内がきた。	
職場内からのお知らせ。	
保健所の方から案内をいただいて。	
農業卸売業組合	

Q3 本日の「食品に関するリスクコミュニケーション」に参加された目的は次のどれですか。（当てはまるものを全て）	
1 関係省庁の食品安全行政の取組の内容を知るため	27 (29.4%)
2 リスクコミュニケーションの取組について知るため	28 (30.4%)
3 輸入食品の安全性についての知識を深めるため	31 (33.7%)
4 残留農薬等のポジティブリスト制度についての知識を深めるため	72 (78.3%)
5 常日頃から抱えている食品の安全性に係る意見を行政に表明するため	4 (4.4%)
6 その他	1 (1.1%)

Q4 演者からの説明についてお伺いします。その説明内容について、十分に理解することができましたか。	
1 できた	22 (23.9%)
2 おおむねできた	63 (68.5%)
3 あまりできなかった	6 (6.5%)
4 できなかった	1 (1.1%)
SQ1 (Q4で「3 あまりできなかった」、「4 できなかった」と回答した方) 十分に理解することができなかった理由は次のどれですか。（当てはまるものを全て）	
1 用語など内容が理解しにくい	2
2 説明資料が見にくい	1
3 説明が聞き取りにくい	2
4 自分が理解していることとは異なる説明である	1
5 その他	
内容が浅く、具体的説明や、対処法が不足していた。	
いただいた資料に書かれている内容より踏み込んだ内容が聞かれなかった。	
資料の棒読みで終始している。	
内容が難しいので。	
HPですでに資料を見ているため、説明を受けるのが億劫になり、聞き逃した部分がある。	

**Q5 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。意見交換は分かりやすく、議論の内容等について理解できましたか。**

1 できた	14 ( 15.2%)
2 おおむねできた	62 ( 67.4%)
3 あまりできなかった	8 ( 8.7%)
4 できなかった	1 ( 1.1%)

**SQ1 (Q5で「3 あまりできなかった」、「4 できなかった」と回答した方)**  
**理解できるようにするためにはどうすればよいと感じますか。(当てはまるものを全て)**

1 専門用語は解説を加えるなど、できるだけわかりやすく説明する	1
2 説明がだらだらと長いので、要点を簡潔に述べる	4
3 内容毎に区切って意見交換を行い、議論が拡散しないようにする	3
4 最初に全体的な意見交換の流れがわかるよう説明する	3
5 その他	

説明が下手。リスクコミュニケーションの基本ができないのでは？  
資料に書いてあることしか説明していない。  
快適な環境設定の上で開催してください。

**Q6 本日のリスクコミュニケーションの内容についてお尋ねします。満足できましたか。**

1 できた	9 ( 9.8%)
2 おおむねできた	60 ( 65.2%)
3 あまりできなかった	15 ( 16.3%)
4 できなかった	1 ( 1.1%)

**SQ1 (Q6で「3 あまりできなかった」、「4 できなかった」と回答した方)**  
**理解できるようにするためにはどうすればよいと感じますか。(当てはまるものを全て)**

1 最初の説明が難しく、理解が深まらなかった	2
2 意見交換の時間が短い	2
3 説明等が一方的で意見交換になっていない	8
4 論点がぼやけるなど、意見交換の進め方に問題がある。	5
5 意見交換して欲しい意見が取り上げられなかった	2
6 その他	

説明の内容がもう少しつっこんだ内容を期待していたため。特に残留農薬のポジティブリスト制。  
難しい内容をうまくまとめていました。民間レベルのわかりやすい説明をキャリアの人がやるとはおもっていませんでしたので、正直言って驚いた。  
リスクの概念が結果的に曖昧になっている。  
一般的説明で内容不足  
説明が下手で得るものがなかった。  
リスクコミュニケーションの説明のみで内容が浅かった。  
資料をじっくり再読し、理解する必要がありそう。  
本来の対応等についての話が合ったほうがよかった。

**Q7 以下のそれぞれの設問について、【意見交換会に参加する前】、【意見交換に参加して】当てはまるものを1つ選んでください。**

**①輸入食品の安全対策の内容について**

**【意見交換会に参加する前】**

1 知っていた	55 ( 59.8%)
2 知らなかった	30 ( 32.6%)

**【意見交換会に参加して】**

1 理解が深まった	63 ( 68.5%)
2 変化なかった	21 ( 22.8%)
3 わからなくなった	0 ( 0.0%)

**②輸入食品の安全対策について**

**【意見交換会に参加する前】**

1 安心していた	17 ( 18.5%)
2 どちらともいえない	55 ( 59.8%)
3 不安だった	15 ( 16.3%)

**【意見交換会に参加して】**

1 安心感が高まった	31 ( 33.7%)
2 変化なかった	53 ( 57.6%)
3 不安感が高まった	1 ( 1.1%)

**③残留農薬等のポジティブリスト制度の内容について**

**【意見交換会に参加する前】**

1 知っていた	65 ( 70.7%)
2 知らなかった	23 ( 25.0%)

**【意見交換会に参加して】**

1 理解が深まった	50 ( 54.4%)
2 変化なかった	35 ( 38.0%)
3 わからなくなった	2 ( 2.2%)

**④残留農薬等のポジティブリスト制度への印象について**

**【意見交換会に参加する前】**

1 安心していた	22 ( 23.9%)
2 どちらともいえない	49 ( 53.3%)
3 不安だった	16 ( 17.4%)

**【意見交換会に参加して】**

1 安心感が高まった	29 ( 31.5%)
2 変化なかった	48 ( 52.2%)
3 不安感が高まった	6 ( 6.5%)

**⑤厚生労働省の取組（リスク管理やリスクコミュニケーション）について**

**【意見交換会に参加する前】**

1 信頼していた	22 ( 23.9%)
2 どちらともいえない	59 ( 64.1%)
3 信頼していなかった	5 ( 5.4%)

**【意見交換会に参加して】**

1 信頼感が深まった	33 ( 35.9%)
2 変化なかった	50 ( 54.4%)
3 不信感が深まった	2 ( 2.2%)

**SQ1 Q7の⑤で厚生労働省の取組について「3 信頼していなかった」、「3 不信感が深まった」と回答された方にお尋ねします。何が問題だと思われますか。**

国の役人はその場のぎでウソが多いから。(行政関係者)

リスクコミュニケーションになっていない。残留農薬的の検査結果のデータの公開の仕方が不十分(個別データが少ない)。(その他)

安全性と不安全性を明確にする。(食品等事業者)

1992年(?)だったかと思うが、イマザリル(農薬)を外圧で食品添加物として認めた事実がある以上、いざとなったら消費者を重視するのではなく、外国を向いているのでは?(消費者)

輸入食品が60%を占める日本は、外国からは良い市場だと思います。買う側の我が儘は大いに主張すべきと思います。国民の安全と健康を守るためには強く主張すべきと思います。主張が足りないと思いますし、外国産に屈せず、自国の利益を守って欲しいと思います。(消費者)

国民の健康より、米国との関係を第一に考えているように見受けられる。(消費者)

外国で認められている農薬は、日本では規制できないものもあると受け取った。聞き違いかもしれないが、問題あるのではないか。(消費者)

アメリカからの輸入牛肉について。(食品等事業者)

生産者及び消費者への説明が不十分である。防止策やどの様なものがリスクがあるのかの説明・普及をしなければ、安心感が得られない。(マスコミ)

## Q8 輸入食品及び残留農薬について、何が問題だと思われますか。

輸入食品について、チェックはしているので化学的には安全かもしれませんが、安心ではありません。アレルギー表示や原材料、添加物についての情報が不足していると思います。又、インターネットを含む、通信販売、個人輸入について、何がどうなっているのでしょうか。(消費者)

検査機が発達しすぎたために、基準値以下でも検出される点。それをマスコミがおもしろおかしく報道する点。(食品等事業者)

コンプライアンスの保証がないこと。WTOの枠組みを考えると、ルールは変えようがない。その状態でどうするかを考えると、ルールに従っているかが問題になるが、それが保証されていない。(行政関係者)

公定法としての試験法の確立。(行政関係者)

アジア諸国からの輸入が増えているように思います。今回、それらの国の基準についても知りたかった。(食品等事業者)

輸入段階におけるモニタリングの精度が本当に正しいかどうか。検証できるのか。(食品等事業者)

スクリーニング等サンプル数からの母集団への精度。(食品等事業者)

国内事情はあっても、使用する農家の意識が自分だけ良ければという事を変えるよう指導したり、場合によっては罰則の適用も止むを得ない。(食品等事業者)

消費者の理解不足、思いこみ。(行政関係者)

暫定基準の明示。(食品等事業者)

国内の自給率が低い事が問題だと思えます。(消費者)

残留農薬について、ドリフトの問題を早急に解決して欲しい。法の施行と順序が逆だと感じた。(行政関係者)

人が食べた時の安全性(行政関係者)

輸入業者は使用農薬の把握をきちんとして輸入すべき。(消費者)

輸入はどうしてもしなければならぬので、体に農薬がどの様な影響が出てくるか心配。(消費者)

ゼロリスク(安心)を求める人たちへの理解促進。(行政関係者)

行政として、食品関連事業者(生産者等)への周知が足りないと思う。ポジティブリスト制度を知らない生産者が多いのでは?加工食品(原料が混ざる)で、農薬残留が発生し、起因者が特定できない場合は、誰が損害を負担するのか?(マスコミ)

輸入時の検査(中国産野菜、農薬、虫(回虫))(マスコミ)

日本へ輸出する各国が日本の残留農薬制度の周知が必要だし、そのような活動を国として行う予定があるのか?(食品等事業者)

海外の農業状況(栽培方法等)が見えず、不安である。(行政関係者)

自給率が低いので、輸入せざるを得ない状況になっている。何もかも輸入されるのは問題。(食品等事業者)

残留農薬と記載しているが、その薬品の成分の残留濃度に応じて対応してゆかねばならず、その手法等の提出をしていただきたい。(行政関係者)

騒ぐことが問題。(行政関係者)

実際、施行された時におきる矛盾点が多すぎる。例えば、小麦の残留農薬の開示がされていない(小麦は国が扱っている)(食品等事業者)

基準を明確にする。(食品等事業者)

一律基準の運用(すべからず回収、廃棄となるのか?)(食品等事業者)

国内の農畜産物については生産者のレベル、輸入食品については中国での取り組み(国内から技術者が指導している中国の産地は問題が少ない)。(食品等事業者)

どれだけ検査が徹底されるか。(消費者)

疑わしくても輸入解禁されてしまっていていいのでしょうか。国民の健康や食の安全をしっかり守って欲しいと思います。(消費者)

何の知識もない上での発言であるのですが、過去、使用された農薬についてどういった被害があったのか、現在は濃さだけでなく、使用の有無があるのかといった知識はホームページ等で簡単に閲覧できるとよいのですが。(食品等事業者)

外国での監視体制、輸入時の検査(モニタリング)は数%にある。(マスコミ)

制度化することによる消費の食品安全性に対する変化。(マスコミ)

国内の種苗会社、総合商社が海外で農産物を栽培加工しているが、日本の法規制と同一条件で取り組まれているのか不安だ。(行政関係者)

情報開示の方法はもっと頻りに、ビジュアルにうたてるよう国としても努力して欲しい。(食品等事業者)

検疫検査センターの職員数の定員がすくないのでは?(行政関係者)

分析手法(食品等事業者)

ドリフト(行政関係者)

目に見えないこと。時々、違反食品が報道されること。(行政関係者)

どこまで検査するのか。(食品等事業者)

農場までが見えない(トレーサビリティ)。輸入した時点で残留については、国が責任を取るべきだと思う。(食品等事業者)

加工食品について、使用実績のある物中心に検査だと一律基準全てクリアしているかどうかそれではわからないので、矛盾を感じる。(食品等事業者)

制度の理解が必要。(行政関係者)

気持ちとしては理解できるが、あまりにも大ざっぱな基準すぎるのでは?検査の手法、費用の問題等、どうするのか不安。生産者いじめにならない様願います。(食品等事業者)

どうしたら安心してもらえるか。信頼の問題であると思う。(行政関係者)

農薬残留に関して、国内に十分なデータがないこと。農水、厚生の方々に現場に出席して欲しい。(行政関係者)

## Q9 本日のリスクコミュニケーションの進め方についてお尋ねします。

今回のリスクコミュニケーションでは、第一部をテーマに関する説明、第二部にパネルディスカッションと意見交換として、良かったと思う点、改善すべきと思う点につき記載下さい。

### 1 良かったと思う点

お話の内容はわかりやすいものでした。(消費者)

一部の説明は明確でわかりやすかった。(消費者)

民間レベルのわかりやすい説明。(行政関係者)

このような機会が作られていること。リスクコミュニケーションの目的が明確にされていること。(行政関係者)

わかりやすい言葉で説明が有り、理解しやすかった。(行政関係者)

細やかに説明されていて、私にとっては理解しやすかった。(行政関係者)

異なる業種の方々の意見は参考になりました。(行政関係者)

初めての参加としては勉強になった。更に色々理解できるよう努力したい。(行政関係者)

説明が分かりやすかった。(行政関係者)

4 / 5 ページ

パネラーの方達が一生懸命仕事をしている事がわかった。(消費者)

色々な方の考えを聞かれて良かったと思います。(行政関係者)  
 食に対する理解が少し高まった。(行政関係者)  
 実態に合った、ディスカッションはおもしろい。良かった。(食品等事業者)  
 説明内容が専門的になりすぎていない点。(マスコミ)  
 色々な部門の話が聞けてよかった。(行政関係者)  
 資料は良かった。(食品等事業者)  
 事前質問を受け付け、当日までに回答を作っていた点。(食品等事業者)  
 各ステークホルダーが情報を共有出来ることは良いことだと思う。(消費者)  
 情報の共有と言う点では良かったと思う。(マスコミ)  
 意見交換会の時間を長く設定したこと。(行政関係者)  
 質問しやすいし、内容が理解できる。(行政関係者)  
 資料の提示。一般消費者への安全基準がわかりやすく提示された。(食品等事業者)  
 司会が良かった。(行政関係者)  
 説明だけでなく、パネルディスカッションを行う事によって、説明だけではぴんと来なかった事の理解も進んだのでは？(食品等事業者)

## 2 改善すべきと思う点

札幌での開催を希望します(なぜ小樽なのですか？)。(行政関係者)  
 対象を把握した内容にして欲しかった。今回のリスクコミュニケーションは、消費者を対象にしていたのか、事業者を対象にしていたのかはっきりしない  
 が、内容がどちらの立場からみても、やや掘り下げが少なく(初歩的内容)わかりやすかったが、物足りなかった。(消費者)  
 もうちょっと前半の説明に時間を割いて欲しかった(特にADI)。BSEは切り離すべきと思った。分析コストの回答ははっきりと逃げにはいっていたので、コ  
 スト負担のところは明確に回答すべきであった。(行政関係者)  
 リスクコミュニケーションの目的が『一緒に考えること』で留まっていること。(行政関係者)  
 生産者の立場になるか、消費者の立場になるか、分けて説明すると分かりやすい。(行政関係者)  
 一つのテーマでの説明→パネルディスカッションの方がメリハリがあってよかったかもしれない。(行政関係者)  
 まだまだ論議が足りない。(行政関係者)  
 横文字が多い。一般消費者にも分かる様な話をして欲しい。(消費者)  
 資料が良くできてるだけに、説明がそれも読み上げるだけで退屈。(食品等事業者)  
 メリハリのないダラダラした説明は良くない。おもしろく聞けない。(食品等事業者)  
 補助屋が欲しいわけではないが、現場にいる生産者は、この法施行に関し、どのように連鎖体系をも考えながらやらなければならないのか？不安が増  
 すばかりである。農水の動きが遅いと思う。(行政関係者)  
 参加者の関心のあり方が固定化され、予定調和になっている。問題点、課題が各々の内容(テーマ)にあるはずなので、その点を併せて説明すると良  
 い。(マスコミ)  
 札幌、旭川、函館、釧路、帯広でも開催して、もっとたくさんの市民に参加させるべきでは？(行政関係者)  
 テーマに関する説明において、ただ資料に書いてある事を読み上げるだけでは、人が立って説明する必要はない。(その他)  
 テーマは一つに絞ったほうがよい。(行政関係者)  
 消費者の理解レベルには問題もある方も多いので、事業者・行政・生産者に分けて開催すべきでは。(食品等事業者)  
 情報が確実に公開されることが前提で、信頼出来る情報が公開されることが望まれるが、その辺の信頼が持てない事が不信感につながるのではない  
 か。(消費者)  
 盛りだくさんで、時間内に終わらせるため、説明が性急すぎるきらいがあった。理解していくのに困難。特にポジティブリストは分からない。(消費者)  
 前半の説明部分はあまり長くない方がよい。もっと皆からの意見を聞く時間をとって欲しかった。(食品等事業者)  
 会場の選択。もう少し分かりやすい画面説明が必要。(食品等事業者)  
 会場がもっと広い方がいいです。(行政関係者)  
 具体的な事例をもとにした意見交換会をしてはどうか。(マスコミ)  
 パネリスト多すぎではないか。よく理解していない人と呼んでいた。(行政関係者)  
 一部のテーマ説明はもっと短くても良かったと思う。(行政関係者)  
 この制度を決める前から開催すべき。できあがったものの理解を求める場ではないと思う。(マスコミ)

## Q10 今後の厚生労働省のリスクコミュニケーションとして行って欲しい課題は何ですか？(当てはまるものを3つ以内)

1 食品中に混入する汚染物質(メチル水銀、ダイオキシン等)の問題	14 (15.2%)
2 食中毒に関する問題	8 (8.7%)
3 検疫所や保健所の監視指導に関する問題	21 (22.8%)
4 健康食品に関する問題(表示を含む)	29 (31.5%)
5 遺伝子組換え食品に関する問題(表示を含む)	35 (38.0%)
6 食品添加物に関する問題(表示を含む)	21 (22.8%)
7 残留農薬、残留動物用医薬品に関する問題(表示を含む)	33 (35.9%)
8 輸入食品に関する問題(表示を含む)	15 (16.3%)
9 上記以外の食品の表示に関する問題	1 (1.1%)
10 その他	
ビールなどのアルコールやたばこの危険性の方が危ないという認識付け。	
牛輸入解禁	